

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	健康福祉部
	17044	三重大学亀山地域医療学講座支援事業		課名	長寿健康課 健康づくりG
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		財務科目	01:一般会計
	基本施策	02:健康づくり・地域医療の充実		款	04:衛生費
	施策の方向	03:地域医療提供体制の整備		項	01:保健衛生費
戦略プロジェクト	01:「健都さぶり」プロジェクト		目	01:保健衛生総務費	
事業予定期間		H 23 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等 寄附講座の設置に関する協定書		

目的・概要	対象	三重大学
	目的	三重大学に対し寄附を行うことで、三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。
概要	三重大学が、市立医療センターにおいて、内科(総合診療科)・整形外科の診療体制を整えながら、実際の診療を通して地域医療を担う医師(総合診療科医)を養成するための教育や亀山市をフィールドとした地域医療に関する研究を実施することに対し、寄附を行うものである。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附 ○延長協定の再締結	○講座設置協定書に基づく三重大学への寄附	
	年度実績	三重大学への寄附講座設置協定書に基づき、寄附を行った。 ○派遣された医師数2人(総合診療科医師1人・整形外科医師1人) 研修医受け入れ人数2人 ○医学生受け入れ人数12人 医療カフェ開催(講座の総合医、研修医、医学生)6回(延べ参加155人)	三重大学への寄附講座設置協定書に基づき、寄附を行った。 ○派遣された医師数2人 研修医や医学生を受け入れ、市立医療センターにて臨床実習や地域医療研修を受けた。新型コロナウイルス流行のため医療カフェや医学生による地域における現地実習は中止となったがオンラインで地域調査を実施した。		
事業費	計画額	事業費	31,200千円	31,200千円	31,200千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	31,200千円	31,200千円	31,200千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	31,200千円	31,200千円	31,200千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	総人件費	2,669千円	2,665千円	0千円	
	一般職員	2,669千円	2,665千円	0千円	
	所要人員	0.34	0.34		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
	総コスト(+)	33,869千円	33,865千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	三重大学への寄附	活動	計画値	寄附実施	寄附実施
		亀山地域医療学講座の設置・運営経費として三重大学への寄附		実績値	実施	実施
				単位		
	名称	寄附講座で配置された医師	成果	計画値	2	2
		研究・研修のフィールドとなる市立医療センターに配置された医師数		実績値	2	2
				単位	人	人
	名称		計画値			
			実績値			
			単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 市立医療センターにて行う家庭医療や地域医療の臨床実習を通じた研究成果を亀山市の保健福祉施策に反映させ、医療・保健・福祉について充実を図る必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 新型コロナウイルス感染症が流行し新しい生活様式を实践する中で、市民が健康維持に努めることができるよう、亀山市の食材を使ったレシピや屋内でできる運動の紹介を掲載したリーフレット作成を、地域医療学講座の医師に総合的な監修を依頼し準備をすすめた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 三重大学へ寄附を行うとともに、亀山地域医療学講座より派遣された医師が、市立医療センターをフィールドとして、実際の医療現場で研修医や医学実習生を受け入れ、指導・教育活動を行った。新型コロナウイルス感染症流行のため、学生による地域調査については現地調査が中止となったが、オンラインで調査をすすめた。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 三重大学へ寄附を行うことで、三重大学との連携をとり安定的に市立医療センターの医師を確保し、地域医療体制の強化が図られた。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 市民が健康で安心して暮らせるよう、救急医療体制を整え、亀山市の基幹的機能を果たすことができるよう継続的に医師確保に努める必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 市立医療センターの医師を継続的に確保し、救急医療体制を整える、また地域医療に貢献する研究や調査を行うため、三重大学の地域医療学講座を継続し地域医療を強化する必要がある。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 地域医療体制等の研究を進めていくことで、市民の健康に寄与するだけでなく、特色ある活動が医療センターの魅力となり医師の安定した確保に繋がり、亀山市の基幹的機能を果たすことが期待できる。	
対応時期		令和3年度	

【1次評価者】	健康福祉部 長寿健康課 健康づくりグループリーダー 村山 寿恵
【最終評価者】	健康福祉部 長寿健康課長 豊田 昌子

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A	B	
	成果	A	A	A	A	

		令和2年度予算額(事業費)の内訳
		予算額(事業費)
内訳		31,200 千円
		令和元年度からの繰越額
		千円
	令和2年度の最終予算額	31,200 千円
	令和3年度への繰越額	千円